



需給見通し(9/2農林水産省)



【令和7/8年の主食用米等の需給実績(玄米ベース)】<速報値>

万玄米トン		
令和7/8年	令和7年6月末民間在庫量 A	155
	令和7年産主食用米等生産量 B=C+D	747
	うち生産者ふり目幅以上 C	718
	うち生産者ふり目幅未満のうち、主食用への供給見込量 D	29
	令和7/8年政府備蓄米供給量 E	23
	令和7/8年主食用米等供給量計 F=A+B+E	925
	令和7/8年主食用米等需要量 G	683
	令和8年6月末民間在庫量 H=F-G	243

【参考】
・長期計画的な販売支援
(32万トン)
・民間備蓄実証事業
(6万トン)

長期計画販売 実証事業

「38」 32 6

今回の政府備蓄米の
買戻し(21万玄米トン)を
踏まえた需給見通し

長期計画販売 実証事業

「38」 32 6

【令和8/9年の主食用米等の需給見通し(玄米ベース)】

令和8/9年	令和8年6月末民間在庫量 H	243
	令和8年産主食用米等生産量 ※1 ※2 I	最小値 中央値 最大値 735~745~754
	令和8/9年主食用米等供給量計 J=H+I	978~988~997
	令和8/9年主食用米等需要量 K	693~711
	政府備蓄米の買戻し L	—
	令和9年6月末民間在庫量 ※4 M=J-K-L	267~285~304

最小値 中央値 最大値
735~745~754

978~988~997

693~711

21 ※3

246~264~283

前回(2026/7/28)との変更点

■8年産生産量 711万トン → 735~745~754万トン

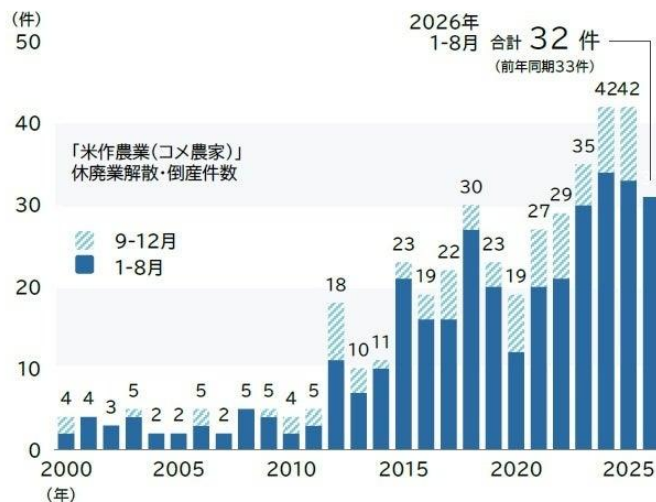
結果 2027/6月末在庫

242~260万トン → 267~285~304万トンに増。入札枚の買い戻し21万トンを差し引くと

246~264~283万トン。それでも多い期末在庫となる。

米農家の廃業・倒産、4年連続の過去最多ペース
TDB調査

「米作農業(コメ農家)」休廃業解散・倒産件数 推移



「倒産」:負債1,000万円以上の法的整理
「休廃業・解散」:特段の手続きを取らずに企業活動が停止した状態を確認(休廃業)、
もしくは商業登記等で解散(ただしみなし解散を除く)を確認した企業

帝国データバンクによると、今年1~8月の米農家(米作法人)の廃業は27件となった。昨年の廃業件数(37件)に迫る水準で推移しており、4年連続で過去最多を更新する可能性。また、倒産(負債1,000万円以上の法的整理)も4件判明し、計31件が生産現場から撤退した。

高米価なのになぜ進む廃業・倒産

生産現場をめぐっては、過去の猛暑による不作などを背景に記録的な米価急騰となった「令和の米騒動」で、農協系からの概算金は大幅に値上がりするなど、多くの米農家が利益を確保した。

ただ、こうした収益改善は単年度としての特徴であり、これまで薄利多売で利益が手元に残りにくかったことから、米作りに欠かせないトラクターや田植え機、コンバイン、乾燥機など、老朽化が進んでいる機械設備の更新を先送りしてきたケースは少なくない。また、近年の異常な猛暑・豪雨・台風、さらにはカメシンの大量発生などにより、収穫量の減少や等級落ちも発生しやすく、事業計画通りに安定供給しづらくなり、将来的に経営が安定するかは不透明な情勢もある。

加えて、全国の米作農業における代表者年齢は60代を超えており、米生産に向けたマンパワー不足も原因となっている。高齢化が顕著ななかで、米価が高くとも「将来を見据えた積極投資」に踏み切れず、高齢化等を理由に事業継続を断念する動きが水面下で進行している可能性が。

次回のかわら版856号は9/28になります。